



外来で治療を受けるがん患者の看護に関する研究

保健福祉学部 看護学科

助教 船橋 眞子（ふなはし みちこ）

連絡先 県立広島大学 三原キャンパス 3410号室
Tel 0848-60-1188 Fax 0848-60-1188
E-mail funahashi@pu-hiroshima.ac.jp

専門分野： 成人看護学、がん看護、

キーワード： 外来看護、希望、外来化学療法、放射線治療、慢性期看護

● 現在の研究について

○外来化学療法を継続するがん患者様(以下、患者様と称します)の希望を支える看護援助モデルの開発に関する研究を行っています。

近年の医療システムの変化に伴い、治療の場が入院から外来へ移行しており、外来で治療を受ける患者様が増加しております。そのため、従来の医療システムでは入院中に医療者と共に解決できた問題を、現在は患者様ご自身が自宅で療養生活を送りながら解決していかなければならない状況が生じております。例えば、化学療法の副作用に対する症状コントロールなどの身体的問題や疾患に関する心理的問題、がん罹患によって変化をもたらされた地域社会や職場などでの社会的問題など抱えながら、それらに対して独自に対処し治療を継続するという非常にストレスの高い状態に患者様が置かれていることです。

希望(Hope)は、人間にとって生きていくうえで必要不可欠な原動力と言われております。このため、ストレスの高い状態に置かれた患者様が主体的に治療や療養生活に取り組み、いきいきとご自身の力を発揮し生活するためには、患者様の希望を支える看護援助を検討することが重要と考えております。

○外来で放射線治療を受けるがん患者様のQOLの維持・向上を促す看護援助に関する研究を行っています。

● 今後進めていきたい研究について

今後も現在の研究を継続し、外来化学療法を受ける患者様への看護援助モデルの開発と評価を行っていききたいと考えております。

また、外来で治療を継続する患者様の主体的な生活を支え、QOLの維持・向上を促す看護援助に関する研究を行っていききたいと考えております。

● 地域・社会と連携して進めたい内容

外来で治療を継続する患者様の療養生活を支える外来看護を充実させるため、医療施設や患者会、家族会などと連携していききたいと考えております。

● これまでの連携実績

がん拠点病院で研究協力を頂き、認定看護師などとの共同研究を行っています。